Mon Nara

Numéro291 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会　OCT. 2019 10 月号

秋の教養講座 2019
講演「脳の働きはこのようにして解明された」

１１月２３日（祝・土）放送大学奈良学習センターにて開催

講師 角田茂（大阪府立大学名誉教授）会員

フランスにおいて、脳の働きがどのようにして解明されていったか、人物を中心にお話ししたいと思います。

フランス革命後、収容所としての病院は解放され、市民のための病院へと変わりました。この改革に貢献したピネルは、患者一人ひとりの症状を詳しく観察・記録し、その患者が亡くなった後、病理解剖するというパリ病院学派（アッカークネヒト提唱）の基礎を築きました。この流れの中で、ブローカは運動性言語中枢を発見し、大脳機能局在論を病理解剖により実証しました。大脳機能局在論は、骨相学のガルによって提唱されたものですが、頭蓋骨の形で精神機能を判断できるという考えは疑似科学と言えるものでした。出発点では正しいのですが、論理の飛躍があって疑似科学になるという構造は、現代社会におけるサプリメントの宣伝とそっくりの構造です。

シャルコーの臨床講義（ブルイエ作）

またシャルコーは多発性硬化症や筋萎縮性側索硬化症の病態を発見し、神経病理学の基礎を築きました。晩年、彼は科学アカデミーによって疑似科学として禁止されていたメスメルの磁気療法を再検討し、催眠療法としてヒステリー患者の治療に応用しました。この頃、シャルコーの門下生に、ポーランド系のバビンスキーとオーストリア出身のフロイトがいました。

バビンスキーは器質性片麻痺とヒステリー性片麻痺を鑑別する方法として、足の裏の外縁を踵から上に向かって安全ピンでこすり、母趾が背屈する反射（バビンスキー徴候）を発見しました。バビンスキー徴候が陽性であれば、反対側の大脳に器質性疾患があり、バビンスキー徴候が陰性であれば、ヒステリー性片麻痺と診断できるというものです。

バビンスキー 徴候

フロイトは、ヒステリー性片麻痺の発生のしくみに興味を持ちました。彼は現代医学に無意識（自覚されない自分）という概念を持ち込んだ人です。我々の行動は、嫌いな人の家ではまず忘れ物をしないというように、我々自身も気づかない無意識によって影響されています。フロイトは、ヒステリー性片麻痺を無意識が起こしている疾患、すなわち心因性疾患として理解しました。彼は自覚されない自分を探る手段として精神分析を創始し、ヒステリー性片麻痺を催眠療法ではなく、精神分析によって治療しました。（角田茂）

日時：２０１９年 11 月 23 日（祝・土）　**主催**：奈良日仏協会、放送大学奈良学習センター
会場：講演会 15:00～17:00　放送大学奈良学習センターZ308 講義室（参加無料、但し要申込）
懇親会 17:30～19:00 「菜宴」（奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F, tel 0742-26-0835）
（参加費：会員 3,000 円、一般 3,500 円）
参加申込：11 月 17 日まで。メール sugitani@kcn.jp（杉谷）tel 090-6322-0672（杉谷）fax 0742-62-1741（三木）。懇親会にいったん申し込み後に欠席の場合、11 月 21 日（木）までに懇親会幹事 090-6322-0672（杉谷）に連絡。連絡なしに欠席の場合は後日参加費を徴収させて頂きます。
※詳しくは本号同封のチラシをご覧ください。

美術クラブ（7/20）報告：ギュスターヴ・モロー展

◆ 梅雨明けが待たれる曇天の中、会員及び初参加の方々計 14 名があべのハルカス美術館に集合。目指すはフランス画壇の象徴派の画家ギュスターヴ･モローの神秘的な絵画世界である。いつものように事前に鑑賞のツボを確認。要点は以下の 3 つ。

1 つ目は「時代背景」。モローの時代は、あの印象派の画家たちの時代でもあった。写真の発明で揺れた 19 世紀後半の美術界、新古典主義やロマン主義からの脱却と、レアリスムを挟んで百花繚乱の表現が胎動したスリリングな時代である。時代が藝術を生み、藝術は時代を写し出す鏡でもあることを再認識。

2 つ目は「輝くメチエ」。モローは「見えないもの、感じるものを信じる」という言葉を残し、神話や聖書から題材を得て繊細優美な絢爛たるイメージ世界を生み出したが、それを支えたのが卓越した技巧、職人技である。出来るだけ作品に近づいて見る、油彩画は角度を変えて、細密表現の筆触を追うことを試みる。

3 つ目に「展示構成」。モローの人となりが明快に伝わるか、レイアウトに洗練が窺えるか、美術評論家になったつもりで展覧会を採点する。

以上、3 項目を念頭に会場を探索。一時間強の鑑賞会を終え、階下のカフェに集合し個々の感想を述べ合った。参加者の多くは文学や音楽などに造詣が深く､パリのモロー美術館の訪問経験もあり､活発な意見交換が実現した。今回､「サロメ」を中心に､「ファムファタール（宿命の女性）」という興味深いテーマを設け、モローの女性観を垣間見せていたが、モロー美術館の圧倒的な展示迫力を知るものにとっては、いささか大人しかったのでは？　むしろ、参加者たちの百花繚乱の感想と、感性の輝きに感服した一時だった。（南城 守）

「出現」
（ギュスターヴ・モロー展図録より）

◆絵画「出現」は幻影の世界。血のしたたるヨカナーンの生首がくうに浮かび、挑む姿で対峙する妖艶なサロメが描かれる。その絵の前で私は今も、すらすらと詩句が暗唱できる。大失恋を体験し、彼を呪った頃のように。

―　ああ、私はとうとうお前に口づけしたよ。お前の口は苦い味がする。血の味かい。いえいえ、それはたぶん恋の味なのだよ　―

かつて､私はサロメを妄想し､耐えがたい現実から逃避することができた。『サロメ』（ワイルド作・福田恒存訳・岩波文庫）と出会い立ち直れた。今はもうドラマもロマンスも訪れそうにない平穏な暮らしの中で､美術作品に物語を読んでしまうのが私の趣味であるようです。（小林安貴子）

◆ 神話や伝説に登場し、その美しさと魔性で男を惑わし、破滅へと誘うファムファタールと呼ばれる女達…モローの描くその女性像は殊更怪しく不思議な魅力に包まれています。彼が表現するサロメやヘレネ、セイレーン達は想像の世界から生まれているにも拘らず、謎のベールを纏いつつその姿を私たちの眼前に現すのです。見えないものを描く、心像を描く…それこそが象徴主義なのでしょう。実生活では慈母に育まれ、生涯ひとりの女性を愛し続けたと伝えられているギュスターヴですが、それだからこそ、宿命の女達に魅了され、強く惹かれていったのかもしれません。今回のモロー展では 70 点近い作品が展示されていましたが、パリのモロー美術館の膨大な作品群を思うに、彼を語るにはとても十分とは言えません。鑑賞後、何年も前に訪れた彼の美術館に再び赴きたくなりました。（中辻純子）

「一角獣」
（ギュスターヴ・モロー展図録より）

◆美術クラブ鑑賞会では鑑賞後の意見交換会が活発で楽しみです。今回も、感想やお気に入りの絵をご披露いただきましたが､プルーストとの関連で話される方､詩作のヒントになったと言われた方､ご自分の失恋経験まで持ち出される方､私も勢い込んで「一角獣」の話をしようとした矢先､南城講師からモローは絵が不器用でその好例が「一角獣」との発言があり腰砕けに。モローは好きな画家で､絵の上を覆う細い銀色の線描の美しさは何とも言えず､線描が身体や柱などの枠をはみ出して広がっていくのはモロー独自の世界です。「一角獣」にもそうした線描が見られ、衣装や冠に宝飾をちりばめた女性たちと一角獣の野外の自然を背景にした交歓の風景は､フランス宮廷風でもあり黄金時代の牧歌的な雰囲気もあり､絵の中に入っていきたい気分になります。（杉谷健治）

第 51 回奈良日仏協会シネクラブ例会（7/28）報告：『未来よこんにちは』

◆「ドラマチック」でもなく、「ドグマチック」でもなく、多くの人々は生きていく。しかしその個々人はドラマも哲学も持っている。昔同志であった夫が去っていく、教え子の考え方が自分と違っていく、母の死、娘の出産…。これからもいろんなことがあるだろう。自分だけの論理を追求していくことではなく、社会的な問題、身の回りに起こる事を受け止めて、自分なりに行動していくこと、それがナタリーにとっての哲学。時には少しアクセントをつけて（黒猫と別れて）自分の背中を押す。70 年安保闘争を経験した世代としての感想です。（白鳥保二）

◆ 長年の同志であった夫の裏切り。娘の気を引くためなら老人ホームで絶食も辞さないという我の強い母親、そのあっけない死。愛弟子の青年との関係も進展性はないばかりか、かえって生き方を批判されたりもする。腹立たしく悲しい出来事が続く中で、リセの教師という仕事を淡々とこなすナタリー（イザベル・ユペール）の毎日。果たして彼女の L’avenir（未来）は？　見終わって重苦しい気持ちになってしまったが、エンドタイトルに、「アンチェインド・メロディー」が突然流れてきた時は、ようやくほっと心が和んだ。（長谷川明子）

◆テーマは「かがやく女優たち」。パリ五月革命後の思想の流行の変化や、主人公の考える「未来」、哲学の文言の意味を考えたら、監督の真意からすれば、この映画でもすこし舌足らずだと思う。今の世界がやはり複雑な構造であり、現代はそう言う難しい時代なのだ。映画は、淡々と、日常を書き、世の成り行き革命や思想の変動すらも淡々とわからせる。職業の講義の場面では賢いことを言わねばならないけれど、日常的にはむしろ平凡な家庭人である女性のものがたり。その断絶こそ最も深刻な哲学的、映画的テーマだった。その渦中の女性に、なお生じてくる問題は何だろうか？　ここが、女性映画のテーマとしてもっともアクティブに問われていたような気がする。

　アルプスの山並みを縫っているハイウェイを、ウッディ・ガスリーのフォークが流れていた。フランスの五月革命を経て、こういう楽天的なコミューンが流行った時代、パリのリセで哲学を講じている女教師の日常の事件。教育現場では生徒たちのストライキ、文明を拒否して山の中でコミューンを営む弟子。家庭では、夫の不倫、母親の介護、娘の結婚と出産に直面。日々を誠実に生きていてなお降り掛かってくる身辺の話題。エロスはむしろ希薄である。何度も出てくるのは、哲学の箴言を朗読する授業場面なのだが、家庭にあっては、ショーペンハウエルの『意志と表象の世界』の本一冊を奪い合うようにしてすすんでゆく哲学教師夫婦の離婚劇。これは、むしろ笑えない喜劇である。崇高な精神といえども世俗の中にしか生きられないものだが、そこでいったい哲学的思考とは何か、ということを観客に考えさせられる。これこそ、女性の「知」の世界の意味を問い返す難問である。孫をあやすヒロインの穏やかな自然な愛の表情。ここに「未来」を託して映画は終るが、問題はそのまま残される。（泉悦子）

◆夫婦と小学生の子どもふたりの 4 人家族で、どこかに向かう船のシーンから始まった。続いて海に突き出したシャトーブリアンの墓が映しだされて、行く先がブルターニュの海辺のサンマロだと分かった。私がはじめてフランス旅行で訪れたのも夏のサンマロだった。2 週間、午前中だけフランス語の授業を受けて、午後は自由時間。クラスメートたちとカフェで昼食をとりながら、ドイツ・オランダ・フィンランド・フランス・日本と、互いの言語や文化や人生観が違うことが話題の種となって、会話が飽きることなく続き、食後は一緒にビーチで泳いだ。海岸沿いを散歩すると、いつもシャトーブリアンの墓が見えていた。干潮の時は陸続きになって歩いて行けるが、潮が満ちてくると島になって渡れなくなる。2 週間もいるのだからいつでも行けると思っていたが、行こうとする時に限って満潮で、最終日の夕暮れどきは、波しぶきが立つ島を悩ましく眺め、サンマロを後にするしかなかった。『墓の彼方からの回想』の著者も哲学者であり新大陸に渡る冒険者でもあった。様々な困難に遭遇したはずだ。冒頭のシーンでは小学生だった女の子が映画の終わりでは母親となり、その母親は孫娘と出会い、それぞれに新たな時間が流れはじめていた。（淺井直子）

第 143回 フランス・アラカルト（8/31）
「ヴィラ九条山研修生エレナ・ファイさんを迎えて」

◆◆今回の講座で私が一番興味を持ったのは、今では日本語の達人ともいえるエレナさんでさえ、習得の長い過程で出会った困難についてです。彼女は 9 歳でひらがなとカタカナを習ったのですが、若すぎて失敗したそうです。現在小学校で英語を教える時に、文字学習については早くから教えないことになっています。まず、聞いたり話したりすることに慣れてからというのは、エレナさんの経験と合致しています。12 歳の時に両親と日本を観光旅行し、帰国したあと、パリ在住の日本人の家庭教師に毎週日本語を習っておられたのですが、毎回天気や日付の質問があったようです。二十日（はつか）や十四日（じゅうよっか）のような不規則な読み方を教えるためだったようですが、退屈だっただろうとお察しします。強い興味をもって研究したいというある程度年齢の上の生徒ではなく、小さい生徒に教える場合には、まずは興味を失わせないようなアプローチが大切だということを、エレナさんから学ばせていただきました。（薗田章恵）

◆◆私は大学時代から会社時代、定年後の活動も含めて外国語とは少なからぬご縁があったものですから、エレナさんのお話には大変興味があり、参加させて頂きました。先ず、エレナさんの流暢な日本語に驚きました。フランスで３年間既に日本語を専門に学んでいたとは言え、たった１年余りの京都大学での留学体験で、かくも流暢な日本語を話すとは！！　テレビなどで流暢な日本語を話す外国生まれの人を見て、日本に住んでいるのだから日本語が上手なのは当然だろうと思っていましたが、エレナさんのお話を聞いて、必ずしもそれだけではないと気付かされました。海外で何十年も生活していながら、まともにその国の言葉を話せない日本人もいますし、逆に日本で長年住んでいても、それほど日本語が上手でない外国人の方も少なくありません。やはり言葉はその国の文化そのものであり、その国の文化や歴史を知る努力をすると共に、言葉そのものの基礎をしっかり身に着ける努力を続けない限り、なかなか一つの言葉をマスターする事は出来ないものだと今更ながら再認識した次第です。（大西弘）

◆◆講師エレナ・ファイさんご自分の体験を聞きながら、フランスとドイツで日本語がどのように教えられているのか、を知る良い機会でした。彼女は生まれながらにして複数の言語に接し、父君の日本との縁もあって日本への関心が高まり、ついには明治時代の日本文学研究を通じて、日本語・日本文化と深くかかわるようになったとのこと。異文化をよく理解するには言語の習得が基礎になります。お互いの文化を尊重し語り合うことで、誤解や不信そして紛争を避けることが出来ます。文豪ゲーテは「外国語を識らぬ者は、自国語について何も知らない」という言葉を残しました。外国語と異文化を学ぶことで、母国の言葉と文化をよりよく理解できるばかりか、人生そのものが豊かになります。私もフランスをはじめ諸外国の言語と文化に好奇心を持ち続けたいです。まだ若いエレナさんが学びを深め続け、日仏友好の懸け橋としてのみならず、広い世界で多方面に活躍されることを期待します。（濱　惠介）

◆◆日本語の堪能なフランス人に同一内容をフランス語と日本語で話してもらうという試みは、ひとえに通訳の手間を省こうというこちらの怠惰な気持と、拙劣な通訳よりは優れた日本語を聞いてもらう方が良いだろうという考えから生まれたものですが、前回のヴェロニク・ドゥニ＝ラロックさんにはみごとこちらの期待に応えていただき、今回のエレナ・ファイさんも、フランス語で話した内容を間髪入れずに流麗な日本語で繰り返していただきました。そのあざやかさは、すぐ横で聞いていて感動するほどでした。パリで日本語を学ぼうとすると大学レベルでは INALCO（Institut national des langues et civilisations orientals）か Université Paris Diderot (Paris VII)の二つの選択肢があるのですが、その両者の違いや、エレナさんが所属する INALCO の教育内容の説明、INALCO から最初の交換留学生として一年間在学した京都大学での学びなど、興味深い話のあと、仏、日、さらには独語まで混じって、ディスカッションも楽しい雰囲気でした。（三野博司）

◆◆J'ai eu l'honneur d'être invité à l'événement "France à la carte", qui eut lieu le samedi 31 août. Cette expérience inédite pour moi m'a fait découvrir l'Association Franco-Japonaise de Nara et ses membres, ainsi que les différentes activités de l'association. Nous avons échangés ensemble sur le thème de l'apprentissage de la langue japonaise par des personnes non-japonaises et l'enseignement de cette langue hors du Japon. J'ai pu découvrir des personnes très intéressantes, qui dans un très bon français m'ont fait part à leur tour de leur apprentissage et de leur relation avec la langue française. Je remercie Monsieur Mino de m'avoir invitée ainsi que toutes les personnes présentes ce jour-là.
8 月 31 日の「フランス・アラカルト」では、最初に私が外国人による日本語習得と外国における日本語教育についてお話し、その後奈良日仏協会の皆様がお一人ずつフランス語で、ご自身のフランス語習得と興味について語ってくださいました。このような素晴らしい場にお招きいただき感謝しています。（エレナ・ファイ）

第５２回奈良日仏協会シネクラブ例会（9/8）報告『王妃マルゴ』

◆◆昨年に続いて、ピエール・シルヴェストリさんがパリから来日して、今年はパトリス・シェロー監督の『王妃マルゴ』(1994) を紹介してくれました。当日は 15 名が参加、第 1 回例会から当シネクラブの活動をピエールさんとともに支えてくださった、元会員で元大映映画監督の中西忠三さんが駆けつけてくださったのは嬉しいことでした。今年入会したばかりの新メンバーと古くからのメンバーとが、一本の映画を通じて新たに出会い、それまで隔てられていた時間的・空間的な距離が一瞬にしてなくなり、作品への共感や違和感を共有できるのは、あらためて素晴らしいことだなと感じました。ピエールさんはその日の朝、関空に到着したばかりでほとんど一睡もしていないというのに、あいかわらずの情熱的な話しぶりで、『王妃マルゴ』の制作に関わった監督はじめとするスタッフのこと、制作当時のヨーロッパの時代状況、ヨーロッパ人の考え方、主演女優のイザベル・アジャーニのことなど、観客として映画を観ただけではわからないような、作り手側の意図や映画がはらむ意味について、興味深いことをたくさん話してくれました。懇親会でも大いに話がはずみ、まさに「映画に乾杯！」のひとときでした。（淺井直子）

◆◆この映画を見たのは 2 回目になります。1 回目は封切後まもない 1995 年頃に大阪の映画館で見ました。そのとき印象に残ったのは血塗られたシーン、殺人のシーン、毒殺のシーンなどの暴力シーンでした。2 回目のきょう印象に残ったのは、イザベル・アジャーニの美しさです。とりわけ暴力シーンで彼女の美しさが際立ちます。最後の場面で、馬車の中で、彼女が恋人の切られた首を膝にかかえて、彼女の白いドレスは血に塗られている。しかし、彼女の顔と肩はまったく汚れていない。美が暴力に抵抗しうるし、美が暴力の悲惨から私たちを救う力をもっているのかなと思いました。（三野博司）

◆◆ピエールさんの映像の色の話は興味深い。黒はプロテスタントの服、黄金はカトリックの豊かさ、白は肌の色、多くの死体の色、赤は愛も示すけれど、悲惨な血の色。そしてナチュレルな女性の美を撮れているというのにもなるほどと思う。確かに、虐殺、マルゴの愛人の生首などにはぞっとするし、マルゴは淫らなイメージだ。だが、裏返せば、情愛も深く、夫の命も救おうとするし、シャルル 9 世の看取りでも涙し、愛する者の命が奪われていくことに抵抗し、自分を投げ出すような強さ、ストレートさが伝わってくる。感動的で美しい。意に反し、どうすることも出来ず、運命のまま生きる。何十年も幽閉された彼女の空しさ、寂しさはいかほどだろう。そして、神の名において、殺戮するという人間の野蛮さ、卑しさは、今の時代にもある。以前、ある編集社で働く二人の女性が、プロテスタントとカトリックということで「けんかしそうになったわ」と言っていたのを覚えているが、信仰は、時に不寛容を伴うのかと思う。信念を通せば他者を否定し追い込んだり命を危うくすることもある。（西久保美芳）

◆◆La projection de *La Reine Margot* de Patrice Chéreau le dimanche 8 septembre m’a permis de présenter au Japon un film qui me tient à cœur. Dans le cadre du cycle sur les grandes actrices françaises initié par le ciné-club de l’Association Franco-Japonaise de Nara, ce fut une joie de faire découvrir à certains le jeu lumineux de la charismatique Isabelle Adjani dans l’un de ses plus beaux rôles. Animer de nouveau une séance du ciné-club m’a procuré beaucoup de plaisir. Je tiens à remercier tous ceux qui sont venus partager ce moment cinématographique et amical. Le septième art rassemble les gens d’où qu’ils viennent et c’est bien le plus important. Il nous relie les uns aux autres. Vivement la prochaine projection ! (Pierre Sylvestri)

9 月 8 日のパトリス・シェローの『王妃マルゴ』の上映会では、私の心にかかる映画を日本で紹介することができた。奈良日仏シネクラブの「女優」シリーズで、イザベル・アジャーニのカリスマ的な輝きにみちた演技をみなさんに発見してもらえて、嬉しかった。シネクラブで解説者として話すことはとても大きな喜びだった。この映画と懇親の会を分かちに来てくれた人たちみんなに、感謝の気持を伝えたい。第七芸術（映画）は至るところから人びとを呼び集める。これは何よりも大事なことだ。映画が私たちをお互いに結びつけてくれる。次の例会が待ちどおしい！（ピエール・シルヴェストリ）

ジャメ先生のフランス語会話講座開講（9/26）

◆◆◆昨年に引き続き、奈良日仏協会主催のフランス語講座として、会話講座初級篇の第 1 回目が、9 月 26 日（木）、生駒市セイセイビルにて開催されました。講師のオリヴィエ・ジャメ先生は、以前 NHK の語学講座で講師をされていて、私も奈良日仏協会に入会する前からお名前だけは存じておりました。講座では、生徒から旅行や買い物など希望のテーマを募り、そのテーマに沿って生徒が話すなかから、先生が一つの表現を取り出し、例えば曜日ならほかの曜日を復習したり、動詞であれば活用を変化させたり、単語であれば類語を上げて微妙な意味の違いを説明したり、その都度、それらを白板に書きながら、同時に大きな声で発音して、われわれに教えてくださいます。動詞の活用で三人称複数だけ急に甲高い声になるなど、お茶目なところがあって驚きました。フランス語会話の勉強にもなりますが、話題が面白く、フランスについて知らなかったこともいろいろと知ることができました。例えばフランスのビリヤードは三つ玉だということ、カオールに有名な橋があること。生徒からの話題も面白く、買い物の会話で、私がスーパーで食料品を買う話をすれば、隣の生徒は消費税が上がる前に化粧品を買いこむという話、最後の生徒はアパートを買ったと、だんだん話が大きくなったので、皆で大笑いしました。（杉谷健治）

◆◆◆初級者にとってうれしい点は、先生の声が大きくはっきりとしておられる事。ジャメ先生は生徒がわかりにくそうだと思われるところは、特にゆっくり大きな声で聞き取りやすく発音してくださいます。また、日本人の苦手とする点を良く把握しておられるので、文法や語彙においてもすぐに的確なサポートをいただけます。そして、生徒のレベルに合った無理のない範囲でいろいろな表現を学べるので、少しずつ自力で話せる、とても楽しく充実したクラスです。（喜多幸子）

◆◆◆普段ジャメ先生とは Bonjour. と Au revoir. の挨拶しかできない私は、今日は 90 分間何も喋れなかったらどうしよう、と不安で一杯でした。ところが、レッスンに入ると、先生の世界に引き込まれて、あっという間に終了時間が来てしまったという感じでした。身近なことをテーマにして、先生が次から次へと質問されます。とにかく話すことだと先生がおっしゃいます。例えば住んでる場所の話や、趣味など。先生の長年の人気の教授方法が理解できた気がしました。先生は私たちに質問して会話に導かれるのがとても上手です。NHK ラジオ講座の講師もされていた理由が理解できました。（髙松洋子）

途中からでも結構ですので、会話講座受講ご希望の方は杉谷までご連絡ください（sugitani@kcn.jp、090-6322-0672）。
10 月 24 日（木）、11 月 28 日（木）、いずれも 17:45～19:15、生駒セイセイビル 204 号室にて。

『万葉集』編纂者大伴家持と「絶唱三首」悲話

Ôtomo no Yakamochi (718–785) est un poète *waka* de l'époque Nara, membre des Trente-six grands poètes, appartenant au Clan Ôtomo. Il aurait compilé le Man'yôshû. Voici ses trois fameux *waka*, qui auraient représenté ses sentiments solitaires et mélancoliques au printemps. (traduits par René Sieffert)

富山県高岡市万葉歴史館の家持像

春の野に 霞たなびき うら悲し この夕影に鶯鳴くも （巻 19-4290） La brume s'étire sur la lande printanière mélancolique dans ombre du crépuscule chante le rossignol	我が屋戸の いささ群竹 ふく風の 音のかそけきこの夕へかも （巻 19-4291） Près de mon logis dans la touffe de bambous le souffle du vent fait un bruit léger au crépuscule du soir	うらうらに 照れる春日に ひばり上がり 心悲しも独りし思へば （巻 19-4292） Aux doux rayons du soleil de printemps l'alouette monte et mon cœur est triste car tout seul je me morfonds

日本の和歌集として最古、最大のものである万葉集の、最後の歌人・選者の一人とされる大伴家持は、養老2（718）年に生まれ、朝廷に出仕、29 歳で越中守に就任。5 年間の任期中は主として国府（現・高岡市）に在勤の傍ら文学サークル“越中歌壇”の創設に専念し、220 首余りの歌を残しています。その後 34 歳で中央政界に戻り、久方ぶりで平城京・佐保の里で生活し、天平勝宝5年、春愁をテーマにした名高い絶唱三部作を発表しました。家持は、左大臣・橘諸兄らの反主流派に近く政治的には不遇な立場にいたためか、ここに紹介した「春愁三首」の醸し出す寂寥感は、架空のものでなく彼の心理の微妙な反映だったのです。春の華やぎの下に流れる短調のしらべは没落しつつある氏族への挽歌だったかも知れません。それでも家持は首都圏知事に当たる職、さらに閣僚に至ったのですが急転して同族の反乱で解官、失意のうちに奥州多賀城で亡くなりました。享年 68 歳でした。（中浦東洋司）

2019 年度ガイドクラブ　「室生寺散策」（10/5）報告

◆◆◆10 月 5 日（土）のガイドクラブ散策では、大野寺と室生寺を訪ねました。大野寺からは宇陀川沿いの断崖絶壁に線刻された弥勒磨崖仏（高さ 11.5 メートル）を遥拝しました。室生寺で参加者 18 名が合流し、寺の門前にある橋本屋旅館の一室にて、竹本講師が映像を紹介しながら、一般にあまり知られていない室生寺の歴史について語ってくれました。その熱弁ぶりには、内容を超越した説得力が加わって、言語や世代の違いを超えた共感が寄せられました。この日は会員の小寺順子さんが奈良に滞在中のフランス人のノエル･オージェさんを、三重日仏協会会員の田中豊士さんが、エノラ・ル・ボルニュさんはじめとする三重大の交換留学生 8 名を誘ってくださり、室生寺が私たちの日仏交流の素晴らしい舞台となりました。フランス文学者の柏木隆雄先生ご夫妻の参加によって、全体の雰囲気がいっそうなごみ、本当に楽しい一日でした。（淺井直子）

◆◆◆Après un briefing par un très sympathique guide touristique local, j’ai visité ce magnifique Temple de Murou-ji. C’était vraiment magnifique de regarder un tel ensemble de bâtiments dans un si joli paysage. J’étais curieux de découvrir ce site. Il faisait si beau que j’aurais aimé découvrir les alentours de ce temple. Malheureusement, je n’ai pas eu le temps de faire de randonnée dans les collines et la forêt environnantes. Je remercie sincèrement l’ensemble des membres de l’Association Franco-Japonaise de Nara pour leur gentillesse, leur générosité et leur accueil chaleureux. Cette amicale rencontre m’a permis de faire connaissance avec de nombreuses personnes. J’espère avoir le plaisir de vous revoir très prochainement. (Noël Auger)
とても楽しいガイドの説明のあと、素晴らしい室生寺を訪れました。美しい風景の中にある建築物の全体は素晴らしかった。この景観の発見は関心を惹きました。好天だったのでお寺の周囲も見たかったけれど、まわりの森や丘を散策する時間がなくて残念でした。奈良日仏協会のみなさんの親切や暖かいもてなしに心から感謝します。たくさんの人と知り合うことができました。近いうちに再会できることを楽しみにしています。（ノエル・オージェ）

◆◆◆Je suis très ravie d'avoir fait votre connaissance. Je vous remercie de nous avoir guidés. Tous les étudiants en echange ont apprécié et sont prêts à réitérer l'expérience. J'ai aussi beaucoup appris et je me sens d'autant plus curieuse sur le bouddhisme, surtout après avoir vu un temple aussi magnifique. La nourriture était aussi delicieuse. (Enora Le Borgne)
みなさまとお近づきになれてとても嬉しいです。私達をガイドしてくださったことに感謝します。交換留学生全員、お寺の素晴らしさを味わい、こうした体験を重ねていく心づもりができました。私もまたたくさんのことを学びました。なにしろ、あれほど見事なお寺を見たあとですので、仏教にいっそう興味がわいてきました。食事もまた美味しかったです。（エノラ・ル・ボルニュ）

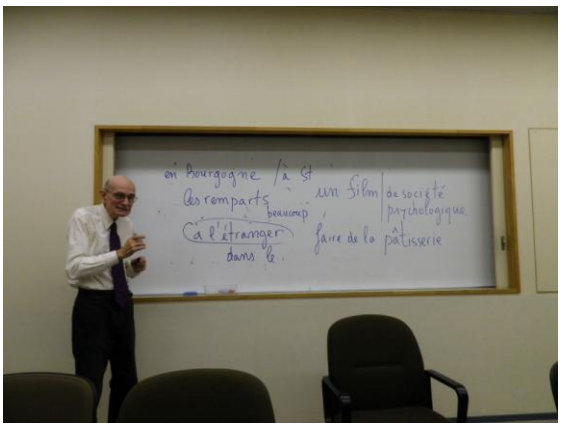
室生寺の歴史の講演を終えて

竹本寿史

今回、講演という形で、謎多き寺「室生寺」の歴史を語ることができたのは、とても幸せなことでした。その機会を与えて頂けたことに感謝申し上げます。1200 年の歴史を 30 分で語る、何を捨てるべきか？ 深入りするのをどこで止めるか？ 推敲しつつ原稿にまとめ上げました。が、それからが大変でした。藤村さん相手に予行演習を実施、説明がたどたどしい上に聴きなれない用語が多く、案の定、睡眠タイム。居眠りさせない為にはどうすればいいか？ 文字を図に変え、本当に伝えたいことのみ残すように改稿。そんな作業のおかげで、私が本当に伝えたいことも鮮明になりました。それは、「室生寺は、興福寺の僧が、山寺として創建し、天台宗の僧達が室生天台を現出すべく金堂を建て、真言密教の僧達が本堂を建て、やがて、興福寺から離反し名実ともに真言宗の寺となったという、他に類をみない歴史をもつ寺である」ということです。

フランス語を簡単に話すこと

オリヴィエ・ジャメ



フランス語会話講座で講師をされるジャメ先生
（9 月 26 日、生駒市セイセイビルにて）

フランス語を話すには、まず、本当に話したいという気持ちが重要です。そのために好きな話題をリストアップし（買い物のこと、自然、旅行、趣味、住んでいる場所のこと、お天気など）、話し相手がなくても、それをフランス語で言うことが大事です。

フランス語で会話することには、たくさんのメリットがあります。というのはフランス語は、英語に次ぐ世界二番目の共通言語だからです。歴史的文化的な背景から、多くの人たちはフランス語が話せるか分かるかします。だからフランス語を話せるということは素晴らしい素養を身につけることなのです。きっとそう感じるはずです。

そのためには、基本となる単語、名詞、形容詞、動詞などを、大きな声で発音したり書いたりして、発音と書き方を結びつけながら覚えないといけません。また、しばしば不規則に活用する基本動詞も同様で、たえず復習することが重要です。これらは数はわずかですが、ひんぱんに用いられます。単文の構造を身につけ、関係代名詞の使い方を理解し、質問にどう答えればいいか、どう質問すればいいかを知らねばなりません。

とくに重要なことは、まず先に日本語でもとても難しいことを考えてから、それを訳そうとしないことです。フランス語的表現だけに集中することです。一言で言えば、会話はやさしくです！　単語、表現、道具語などフランス語の体系があなたの頭のなか舌先に徐々に形づくられ、あなたのなかの辞書が少しずつ豊かになると、会話が簡単にできるようになり、フランス語を話すことが楽しくなって自信がつき、その自信はもう消えないでしょう。

楽しく、くつろいで、まるでゲームのように、フランス語を話すこと…。

Parler le français facilement, ce n'est pas si difficile !

Pour parler le français facilement, d'abord, il faut être mû par une grande motivation, en avoir vraiment envie et pour cela se constituer une liste de thèmes que l'on aime bien (les achats, la nature, les voyages, les passe-temps, l'endroit où l'on habite, la météo...) et se lancer en français même s'il n'y a personne pour vous écouter...

Il y a quantité d'avantages, sur le plan de la communication générale, à parler le français ! Parce que le français est la deuxième langue « véhiculaire » du monde, derrière l'anglais. Quantité de personnes dans le monde parlent ou comprennent le français pour des raisons historiques ou culturelles. C'est donc une véritable richesse personnelle de pouvoir s'exprimer en français. Vous le découvrirez !

Pour cela, il faut d'abord réviser le vocabulaire de base, noms, ajectifs, verbes, autres types de mots, en les prononçant à voix haute et en les écrivant, associant la prononciation et l'écriture. Il convient également de réviser les conjugaisons des verbes usuels, souvent irréguliers, en les disant, les écrivant et les répétant souvent à voix haute. Ils ne sont pas très nombreux, mais reviennent tout le temps. Il faut apprendre à vous entraîner à créer des structures de phrases simples, avec des pronoms relatifs, savoir bien répondre à des questions et aussi savoir bien poser des questions.

Il faut surtout vous efforcer de ne pas traduire des mots ou expressions en japonais que vous avez dans la tête et qui sont parfois très difficiles, en japonais aussi ; il vous faut apprendre à vous limiter dans votre expression en français. En un mot, de la conversation facile ! Un ensemble de mots, d'expressions, de « mots-outils » en français va alors progessivement se constituer dans votre esprit et sous votre langue. Le dictionnaire vivant que vous êtes va s'enrichir peu à peu. Vos échanges en français en seront de plus en plus facilités. Cela deviendra un véritable plaisir pour vous de parler le français et la confiance en vous viendra et ne vous quittera plus.

Parler français avec plaisir, de manière détendue, comme si c'était un jeu de société... (Olivier Jamet)

「フランス鉄道紀行」（6）《鉄道で行くアルザスの村 オベルネ》

知念 宏司

筆者が 1 年間過ごしたアルザス地方には、美しい小さな村が数多くあるが、車でないと行けない所が多い。人気の観光地コルマールは列車で行けるが、県庁所在地だけに町の規模は大きい。そうした中、オベルネ（Obernai）は「村」と呼べそうな大きさで街並みも美しく、お勧めだ。ストラスブールから列車で 40 分弱、空港のある Entzheim を通る路線を進むと到着する。ローカル線で本数は多くないが、駅から旧市街まで歩いて数分で、気軽に訪れることができる。

どうかすると見落としてしまいそうな旧跡が Général-Gouraud 通りにある Cour Fastinger と呼ばれる建物だ（菓子店 “Gross” の左隣)。これは中庭 (cour) を備えた建物の集合体だが、一部は 1418 年にまで遡るといい、町の歴史的建造物の中でも古い方に属する。

Cour Fastinger の古い建物

筆者が訪れたのは、1 年間の滞在を終え帰国する 2 日前、ついにアパートも引き払ってホテルに滞在していた時、最後の日帰り観光の地として選んだのだった。それまで当たり前のように眺めていた木組みの家々、古い教会、毎日耳にしていた鐘の音、道行く人々のフランス語、そういったものに別れを告げなければならないことがいよいよ実感となり、まさに後ろ髪を引かれる思いだった。そんな最後の日に出会ったおもしろい光景は、教会におけるオルガンのレッスンだった。あちらではふらりと教会に入るとオルガン奏者が練習しているのを目にすることがあり、しかも曲がヴィドール（Charles-Marie Widor, 1844-1937）の作だったりして、さすがフランスと思うことがあるが、この日は年配の奏者が若手に稽古をつけているところだった。これもヨーロッパならではである。

教会でのオルガンレッスン

夕方オベルネを後にし、1 駅手前のビショフスハイムでも途中下車して少し街を歩いた。これといった名所はないが、小高い公園に立って眺める街並みはやはりアルザスの田舎だ。まだ肌寒いが日も長くなり、少し霞んだ夕日には春の気配を感じる。長期滞在最後の思い出の風景となった。

「モリエールの喜劇」（3）『タルチュフ』（*Le Tartuffe*, 1664）

山本 邦彦

パリの裕福な町人オルゴンは、乞食坊主タルチュフをまるで聖人のように思い込み、指導司祭として自宅に住まわせ、娘マリアンヌの婿として全財産を譲渡しようとまで考えています。ところが、タルチュフはオルゴンの美貌の後妻エルミールの方にご執心。情欲を詭弁的なせりふでごまかしながら彼女に言い寄ります。「信心深いからと言って、私が人間であることに変わりはありません」「私は天使ではないのです」。しかしそこはエルミールの方がうわてで、彼女の仕組んだ芝居にタルチュフはまんまとだまされて、本性を露呈してしまいます。

その場面、エルミールが大芝居を打つ第 4 幕は『タルチュフ』の最大の見どころです。いくら訴えても信用してくれない夫オルゴンをテーブルの下に隠して、彼女はタルチュフを呼び入れます。最初は警戒しておずおずとしていたタルチュフが次第に大胆になり、きわどい台詞を吐き始めると、エルミールはわざと咳をして夫に知らせます。タルチュフ「こっそり罪を犯すのは、罪を犯すことにはなりません」。エルミールは咳をしてテーブルをたたいて「どうやらお言葉に従ってなにもかもお許しする時が来たようですわ。そうでもしなければ，満足していただけず、まいったともおしゃらないでしょうからね」。タルチュフに語るように見せかけて、夫を皮肉るこの作劇の巧みさ！モリエール全作品中でも屈指の名場面です。

コメディ・フランセーズ：クロード・ヴァンテール（エルミール）、ロベール・イルシュ（タルチュフ）

『タルチュフ』は 1664 年、ヴェルサイユ宮殿竣工記念行事に合わせて 3 幕で初演され，宗教界の圧力で直ちに上演禁止。『ペてん師』という表題で改作された 1667 年版も禁止。1669 年、ようやく今日見る 5 幕韻文の『タルチュフ』が完全上演できるようになりました。国王の慧眼でタルチュフの陰謀が暴かれるという、取って付けたような結末を付けて。

会員投稿

Impression à Nara, soleil levant

ピエール・シルヴェストリ

この町は世界中からの旅行者を受けいれ、彼らに風景、建築、職人芸他、多種多様の素晴らしさを提供している。国際化の時代、日本はアピールできるたくさんの切り札をもっているし、これからもますます多くの訪問者を惹きつけることだろう。この点からすると、奈良は明らかに変化している。というのも、ひとつの場所は、住人、建築物、基盤となる施設の全体からのみ成るのではないから。奈良に滞在し、通過していく人々は、私がこの町に抱いている印象を修正してくれる。旅行者たちは、大多数はアジア人だが、町を彩り特別な雰囲気をもたらしている。その一方で、奈良は日出ずる国の古都であり続ける。町の独自性は永遠の価値をもつかのように同じであり続ける。私がはじめてこの町に足を踏み入れたのは 15 年ほど前。ここに長い間住んだことがあり、時々戻ってくる。私の印象は、時間の経過を超越した愛する女性と再会するような感覚である。はじめまして。

これが今ここにいる私の状態だ。じっさい町は以前よりよくなった。私の眼にはなぜかはわからないが美しくなっているように映る。それはきっと、私がここでの素晴らしい時を知っていて、訪れる度にその姿がなおも見えるからだろう。奈良はいつまでも私の恋人であり続けるだろう！

La cité s’ouvre de manière exponentielle aux voyageurs du Monde entier et leur offre ses merveilles multiples, qu’elles soient paysagères, architecturales, artisanales ou autres. À l’heure de la globalisation, le Japon a de nombreux atouts à faire valoir et attirera toujours plus de visiteurs.

De ce point de vue, Nara se transforme incontestablement puisqu’un lieu ne consiste pas seulement en un ensemble d’habitants, de constructions et d’infrastructures. Les gens qui séjournent ou traversent Nara modifient l’impression que je me fais de la ville. Les touristes, majoritairement asiatiques, colorent la cité et lui procure une atmosphère particulière. D’un autre côté, Nara demeure l’ancienne capitale de l’Empire du Soleil Levant. L’identité de la ville reste la même comme si elle avait valeur d’éternité. J’ai mis les pieds pour la première fois dans cette cité il y a une quinzaine d’années. J’y ai longtemps habité et y revient régulièrement. Mon impression me semble être la suivante, j’ai le sentiment de retrouver une femme aimée sur laquelle le temps n’a pas prise. Enchanté.

Voilà mon état quand je suis ici. En réalité, je crois que la ville s’est bonifiée. À mes yeux elle s’embellie sans que je sache vraiment pourquoi. Probablement parce que j’y ai connu de beaux moments et qu’à chacune de mes visites, j’en vis encore. Nara sera éternellement mon Amour ! (Pierre Sylvestri)

フランスの小さな町を訪れて

三澤 知香（みさわ ちか）

クリダ先生とマンドにて

パリでの留学期間中の思い出深い事の一つは、恩師のクリダ先生の講習会に参加をする為に、マンド（Mende）と言う町を訪れた事です。クレルモンフェランからバスで南へ 2～3 時間程行った山間にあり、中心街は歩いて約 30 分で一周できる小さな町です。町と言うより、村と言った雰囲気です。

マンドでの講習会中、些細な事ですが、一つびっくりした事がありました。受講生は宿泊先として、高校の寮の個室部屋を一人づつ与えられるのですが、どの部屋の出入り口扉にも、鍵が付いていないのです。日中、受講生は寮には居ないので出掛ける度に、スーツケースを持ち歩いていました。

ある日、近所に住む女性に「なぜ、そんなに荷物を持ち歩いているの？」と尋ねられたので、「部屋の扉には鍵が無いから、泥棒に取られないか心配だから」と答えると、びっくりされてしまいました。彼女曰く「みんな顔見知りだから、もし泥棒をしてもすぐに誰かわかる。大丈夫よ」との事でした。「扉に鍵が無いくらい何が心配なんだ」と、かえって不審そうな感じでした。

日本の山村でも、ほとんど鍵をかけずに生活なさっている場所があるとテレビで聞いたことがありましたが、フランスでもそんな場所があるんだと軽くショックを受けました。パリとは大分、防犯意識が違うんだなと感慨深いものがありました。これがフランスの古き良き時代と言われた感覚なのでしょうか。寮にはテレビもネットも無いと知った時は「2 週間、山村でどうしようか？」と思いましたが、日中はレッスンで忙しいし、夜は疲れてすぐに寝てしまうので、あっという間でした。

人間は、意外と適応してやっていけるんだなと知りました。集落の皆様のお力添えのお蔭で安心して講習会を受けることができ、充実した毎日でした。私にとっては、貴重な経験ができました。それ以来パリも良いけど、機会があれば、フランスの田舎にも是非行ってみたいなと強く思う様になりました。

フランス手芸用品店巡り

中村 レイ子

今年の春から奈良日仏協会に入会させて頂きました。大和郡山市で輸入刺繍材料の「クロスステッチ館」という店舗を経営しております。フランスとのおつきあいは 20 年以上になります。現在は年に 2 回ほど渡仏して取引先の店舗オーナーさんやデザイナーさんにお会いするのが楽しみです。フランスに行くと親日家の方が多く、とても親切にして頂きました。また日本の文化や伝統にとても興味を抱いておられるのに驚きました。

手芸が好きな方はパリのメルスリー（手芸用品店）巡りもおすすめです。オペラ地区にあるタッセル老舗店 Declercq と、老舗資材店 Ultramod はアンティーク好きな方には特にお勧めです。Declercq はお城や美術館の修復を手掛けるタッセルメーカーで、機械化が進むメーカーの中でハンドメイドにこだわっている素敵なお店です。店舗内のガラスケースに展示されている年代物のタッセルは、値段がつけられない貴重な美術品です。高額なものも沢山ありますが、お手頃なキータッセルや手作りキットもあります。Ultramod はヴィンテージのボタンやリボン、トリミングコード、帽子の材料等、日本ではなかなか手に入らないアンティーク手芸材料の宝庫です。お時間がございましたら一度訪れてみてくださいね。

蚤の市で購入したアンティーク手芸用品

最近はパリだけでなく、地方都市を巡るのがとても楽しいです。パリから 1 時間も TGV で離れると自然が広がり、その土地土地の持つ独特の風景や食文化に触れる度に、もっと違う地域を訪れてみたいと思います。最近はできるだけ民泊を利用して、フランスの最も美しい村 les plus beaux villages de France を、毎年少しずつ巡るのがライフワークとなっています。

Che sarà

小林 安貴子（こばやし あきこ）

自己紹介は苦手だが、フランスとの出会いから書き出すことにしよう。それは大学の入学式。総長がロマン・ロランの小説を引用し「みなさんは魅せられたる魂になりなさい」と式辞を述べられた。その言葉は私の全身を打ち、心柱が建ち上がったような感銘を受けた。第二外国語のテキストは『星の王子様 Le Petit Prince 』。ボーヴォワールの『第二の性』で人生を方向づけられ、哲学や社会科学を読みあさった。「Ma Solitude」を歌うジョルジュ・ムスタキの声と風貌に魅了された。初めての海外旅行先はパリ。TGV に乗りジュネーブへ。車窓の景色は印象派の絵画を観るようで美しかった。好きなお酒はワイン。こんな風に書きだしてみるとフランス一色に染まっているようにみえるが、じっさいには、時々出会うだけの縁だった。

ほんとうは、私はエッセイストでシャンソン歌手です、と自己紹介できれば、どんなにカッコいいだろうか！　でも、ながく続けていれば表彰台に上がれるというものでもない。才能がなければ駄目だ。才能ある者は、たぶん突然変異のように生まれる天分の持ち主なので、ごくひと握りしかいない。この齢になってようやく気づいた。

ブルゴーニュ地方ワイナリー巡り　ロマネコンティ村にて
（2013 年 9 月 11 日撮影）

しかし、悲観することはない。凡才にもこんな言葉が用意されている。「下手の横好き」である。しかも、私は続ける能力を持ち合わせている。ということで、ようやく紹介できる自己にたどり着けた。私は好き者（趣味人）です。私には好きで続けていることがたくさんある。海外旅行・シャンソン・読書・エッセイ・ストーリーテリング・古道ウオーキング・スポーツジム etc 。

好きなことに夢中になって遊んでいましょう、日が暮れるまで。カンツォーネは唄う。

♪ケサラ　ケサラ　なるようになるさ　私たちの人生は　涙とギター　道連れにして　夢見ていればいいのさ ♪

第 144 回 フランス・アラカルト「エコール・タンタンのフランス・クリスマス菓子講座」

✤日時：2019 年 12 月 15 日（日）14:00～16:00
✤会費：会員 3,500 円、一般 4,000 円
✤会場：エコール・タンタン 奈良市西登美ケ丘 8-9-21
（近鉄学園前駅北口から市バスで約 10 分『西登美ヶ丘五丁目』下車徒歩 9 分、駐車場 5 台まで可、0120-44-0341（柳谷））
✤問い合わせと申込先： yoko-ta@kcn.ne.jp 090-1593-3738 （髙松）
キャンセルは、材料調達の都合上、1 週間前の 12 月 8 日（日）まで受付
✤講師：柳谷安以子（やなぎたに あいこ）さん
お菓子研究家大森由紀子氏に師事し、ディプロム取得。12 年間にわたりフランス各地方を訪ね、現地の地方菓子・料理の研修を受ける。2010 年から奈良市西登美ヶ丘でフランス地方菓子と地方料理の教室「エコール・タンタン」を主宰、Mon Nara にも地方菓子のテーマで 6 回にわたり寄稿、好評を博す。今回はアルザスのクリスマスのお菓子についてのお話と「ベラヴェッカ」（フルーツとナッツいっぱいのクリスマスケーキ）と「ブレデル」（クリスマスのクッキー）の製作デモンストレーションと試食。お茶と共に優雅な午後を過ごす。
✤講師からのメッセージ：フランスでもアルザスはお菓子の宝庫。特にクリスマスマーケットには彼の地ならではのクリスマスの焼き菓子が並びます。今回ご紹介するベラヴェッカとブレデルに共通しているのがクリスマスには欠かせない『スパイス』です。作り方のデモンストレーションの後はフランスの歴史ある茶葉店『パレデテ』の 5 種類の茶葉からお好きなお茶を、お菓子と共にお召し上がりください。

≪2019 年度第 4 回理事会報告≫……事務局 日時：2019 年 10 月 3 日（木）15:00～17:10。場所：放送大学奈良学習センターZ306 号室。出席者：三野、野島、藤村、中辻、高松、大内、喜多、薗田、三木、杉谷。議題 1. 2019 年度会員数：件数 95 件、うち会費納入 83、未納 8、新・再入会 11、退会 4。議題 2. 7/18 理事会後の活動：美術クラブ第 2 回鑑賞会「ギュスターヴ・モロー展」講師南城守(7/20)、第 51 回シネクラブ例会『未来よこんにちは』(7/28)、第 143 回フランス・アラカルト「エレナ・ファーユさんを迎えて」(8/31) 、第 52 回シネクラブ例会『王妃マルゴ』(9/8)、フランス語会話講座初級（9/26）。議題 3. 今後の行事：ガイドクラブ「室生寺散策」講師竹本寿史(10/5)、秋の教養講座(11/23) 講師角田茂「脳の働きはこのようにして解明された」、第 144 回フランス・アラカルト「高級菓子と紅茶」講師柳谷安以子(12/15) 、来年度総会と新年会(2/11)、会場は菜宴。議題 4. Mon Nara。議題 5. その他：次回理事会 11 月 21 日（木）15：00～16：30。

編 集 後 記 ☆「萩」は秋の七草のひとつ。のびた枝の先からたくさんの小花をつけて、赤紫色の花房が垂れ下がり、秋風に揺れているさまには、なんともいえない可憐さと風情が感じられます。萩は「万葉集」で 141 首と、もっとも多く詠まれている花でもあります。そのせいか奈良には白毫寺をはじめ、萩の花の名所がいくつかあります。奈良に住んでいると、暑い夏が終わって少し涼しくなった頃に、萩の花咲くお寺をふと訪ねて、和歌を通じてかつて奈良の地に暮らした万葉人のことを、歴史上の人物としてではなく、郷土の詩人として想いかえしてみることもできます。なんというぜいたくでしょう！ 758 年 7 月 5 日、大伴家持 (Ôtomo no Yakamochi) は因幡の国に赴任する時の別れの宴で、「秋風のすゑ吹きなびく萩の花ともに挿頭（かざ）さず相か別れむ」« Fleurs de lespédèze / dont les feuilles ploient au souffle / du vent de l'automne / sans nous en couronner ensemble / nous faut-il donc nous quitter » [traduit par René Sieffert]（巻 20-4515）と詠んでいます。家持は萩の花をどんな風に思って、花にどんな気持ちを託しているのでしょうか、そんなことを思いながら 2019 年の秋の始まりを迎えました。(N. Asai)

◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
◆本誌への投稿、**特に新鮮で多様な話題、直近のフランス情報など**を歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ、表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara２月号は**１月 31 日**が原稿締切日です。
◆会員のみなさまで**「Mon Nara」（２月、６月、10 月発行）又は「Mon Nara 通信」（４月、８月、12 月発行）にチラシ同封を希望される方**は、１）内容がフランスに関わるもの、２）本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせ下さい。

Mon Nara 2019 年 10 月号 numéro291
奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara
HP：http://www.afjn.jp **E-mail：**nara.afj@gmail.com **FAX：0742-62-1741**
〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴［郵便物のみ］発行責任者：三野博司